

2015年4月発行

# ブラジルだより

その1

みなさん、こんにちは。

鳥取県からブラジル第二アリアンサ鳥取村日本語学校へ派遣されております、若林陽子です。

この通信では、より多くの県民の皆様にはブラジルのことを知って頂けるよう、ブラジルで生活する中で、私が感じたことや発見したことをお伝えしたいと思います。



## ブラジルに鳥取村????

大都市サンパウロからおよそ600キロ、第1, 第2, 第3の3つの村からなるアリアンサ移住地があります。鳥取県が土地を購入、建設した移住地であることから、第二アリアンサ鳥取村と呼ばれています。現在は日本人家族の世帯も31世帯、そのうち鳥取県出身の方は3世帯です。農業、牧畜、養鶏が盛んです。道路を挟んで両側には牧草地が広がり、たくさんの肉牛の姿を見ることができます。一年通して暖かいことから、マンゴー、パパイヤ、ギャバ、アセロラ、レモンなど、たくさんの果物が栽培されています。(詳しくは第2号以降の通信でお伝えします)

お盆の墓参り、盆踊りなどの伝統行事や日本の食文化も残っています。現在は日本語を話すことのできる日系人も減ってきたとのことですが、アリアンサでは日本人世帯の方々にはみなさん日本語を話されるので、ここはブラジルだということを忘れそうになることもありました。

ブラジルは南半球に位置していますので、日本とは季節が反対になります。ただし、アリアンサは冬といっても日本のように厚手のコートやダウンジャケットを着るということはありません。薄手のセーターを着る日が数日ある程度です。12月から2月までは暑い日が続きます。雨が降ると涼しくなるのですが、雨が降らない日が続くと、日中は40度を超えることもしばしば。一昨年以降降水量がかなり減ったようで、「昔とちがって、雨が少なくなった。昔はこんなに暑くなかったよ。」と村の方が言うておられました。雨が降らず、気温が高いことから、作物の収穫量も減ったようです。ブラジルも日本と同じように年々気候が変化し、人々の生活に影響が及んでいます。

